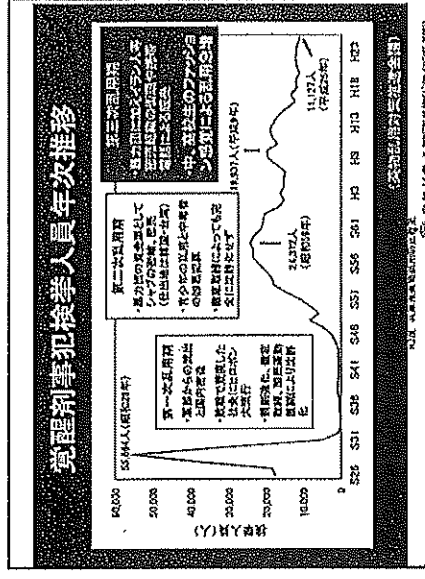
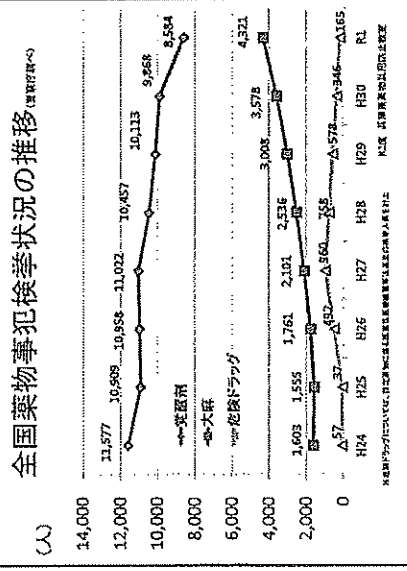
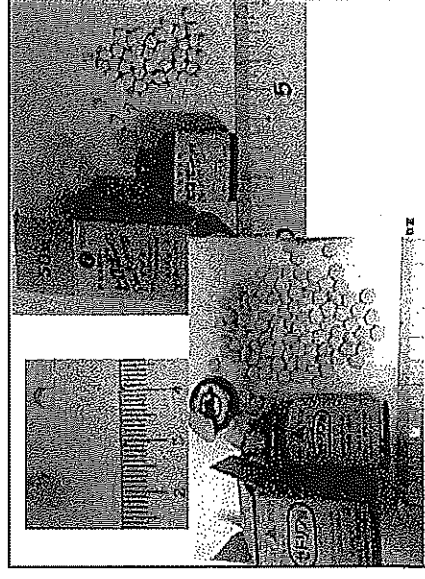


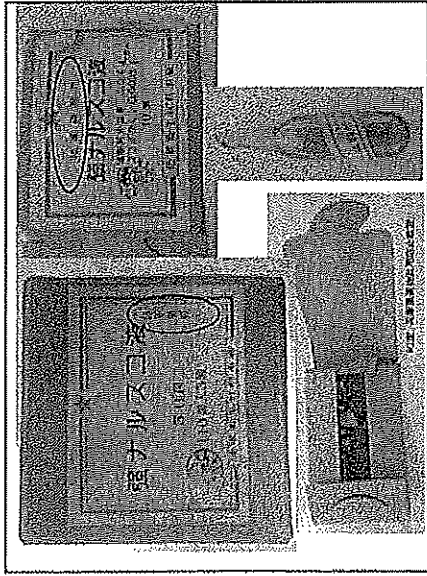
III 薬物乱用の現状について

出典 日本警察官制改正官制



覚せい剤





全国の薬物事犯の検挙人員（警察庁資料）

年 度	全薬物事犯	内 訳		
		うち覚醒剤	うち大麻	うち麻薬・ 向精神薬
R元年 (割合)	13,364人 (100%)	8,584人 (64.2%)	4,321人 (32.3%)	459人 (3.4%)
H30年 (割合)	13,862人 (100%)	9,868人 (71.2%)	3,578人 (25.8%)	415人 (3.0%)
H29年 (割合)	13,542人 (100%)	10,113人 (74.7%)	3,008人 (22.2%)	409人 (3.0%)

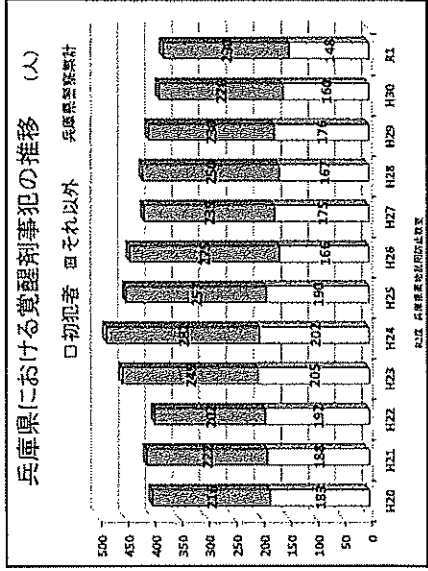
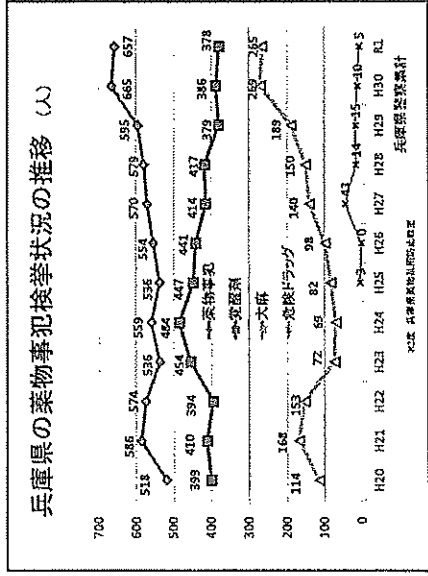
検挙人員は覚醒剤と大麻事犯で96%以上

※29 兵庫県警本部統計課提供

令和元年 薬物事犯検挙人員 警察庁集計

区 別	初犯率 (%)	暴力団 構成率 (%)	20歳代 以下率 (%)	中学生 人数 (人)	高校生 人数 (人)	大学生 人数 (人)
覚醒剤 事犯 (前年比)	33.7 (-0.2)	43.5 (-3.6)	13.2 (+0.4)	3 (±0)	10 (-3)	26 (+11)
大麻 事犯 (前年比)	76.6 (+1.0)	18.1 (-3.2)	59.2 (+4.7)	6 (-1)	109 (+35)	132 (+32)

※29 兵庫県警本部統計課提供



危険ドラッグ乱用者に係る救急搬送事案の 発生状況 (兵庫県)

(兵庫県警本部統計課提供集計)

時 期	発生状況
平成25年	20件23人
平成26年	51件49人
平成27年	1件1人
平成28年・29年	0件
平成30年	1件1人
令和元年	0件

※29 兵庫県警本部統計課提供

危険ドラッグ販売店は激減！

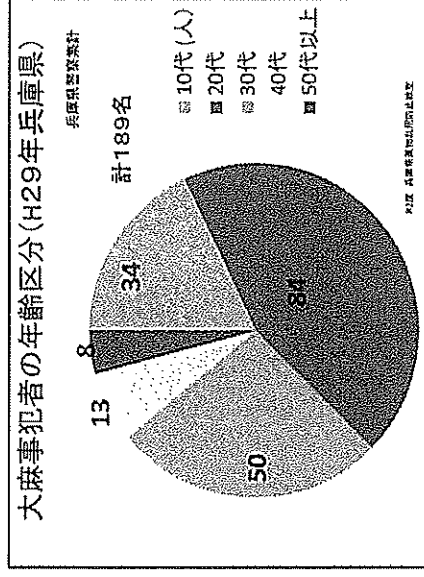
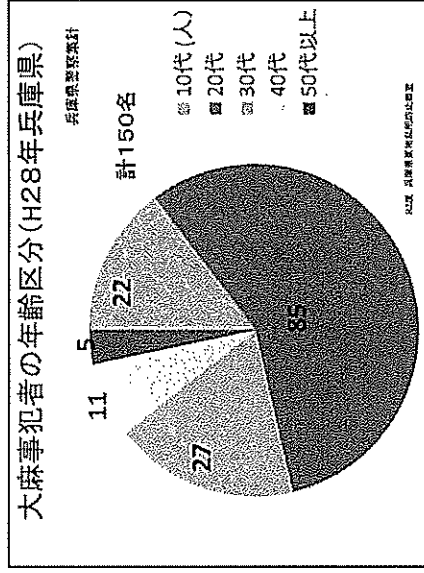
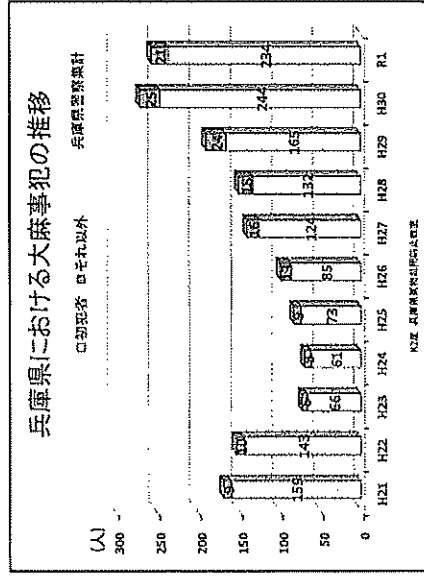
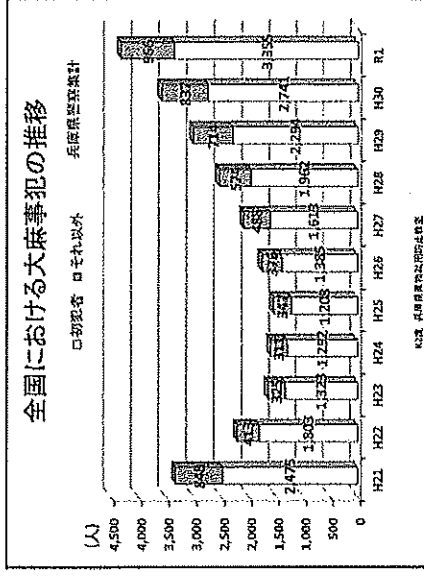
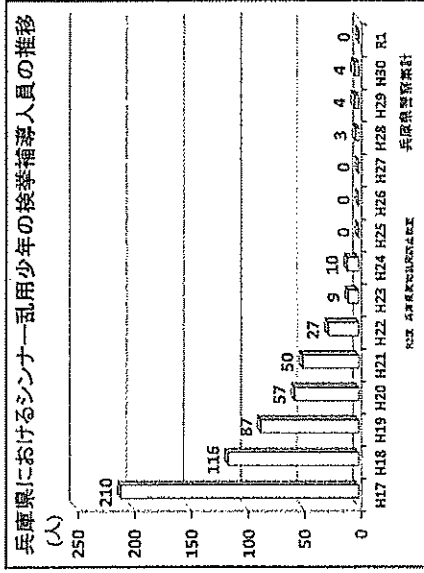
時期	危険ドラッグ販売店数(兵庫県)
平成26年10月	12店
平成27年2月末	0店

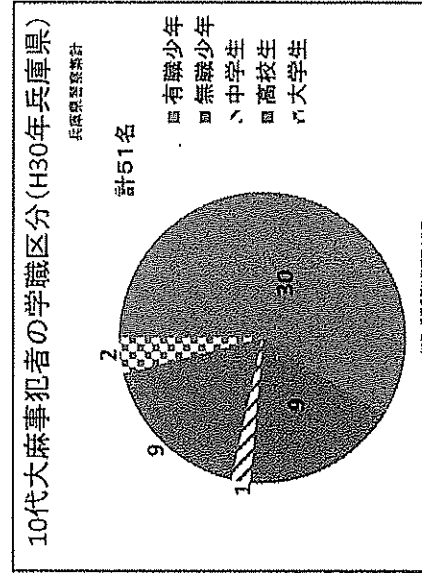
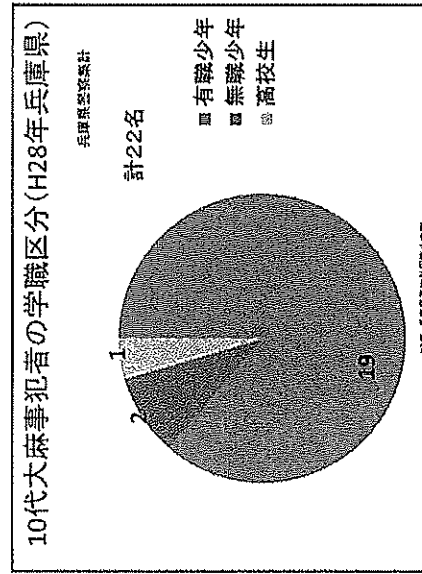
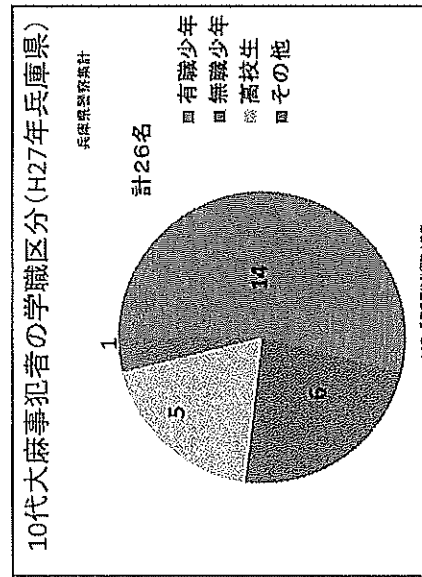
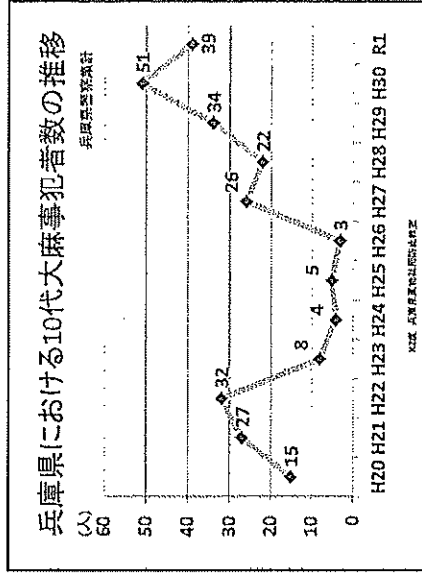
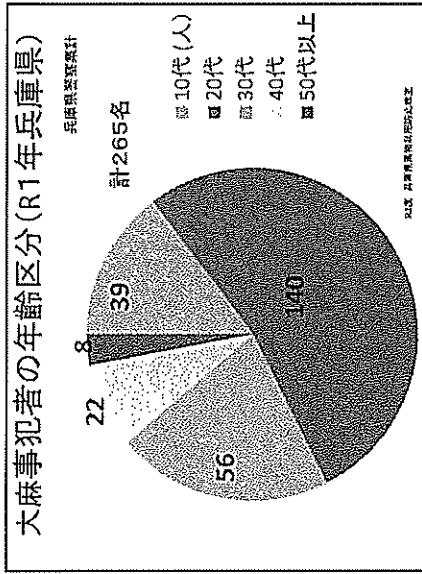
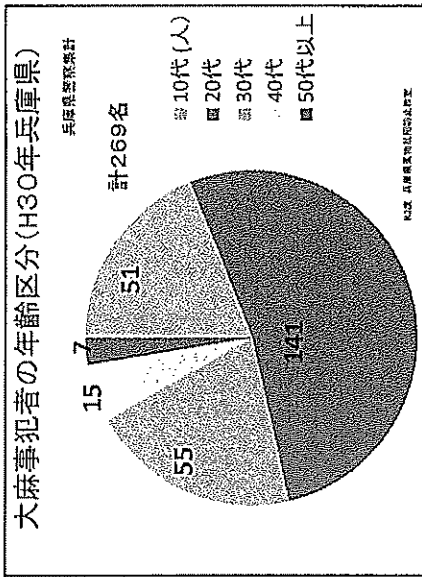
販売業者が直接届けるデリハリや覚醒剤のような地下化が進みつつある？

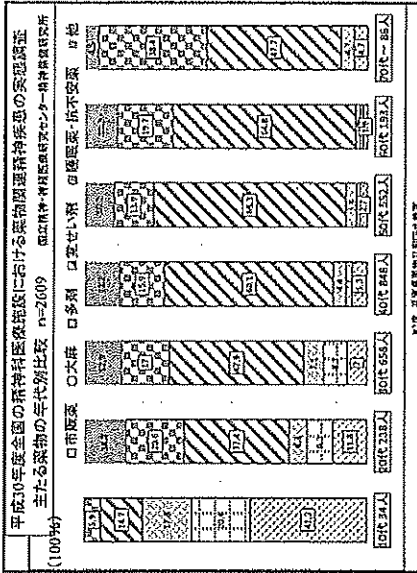
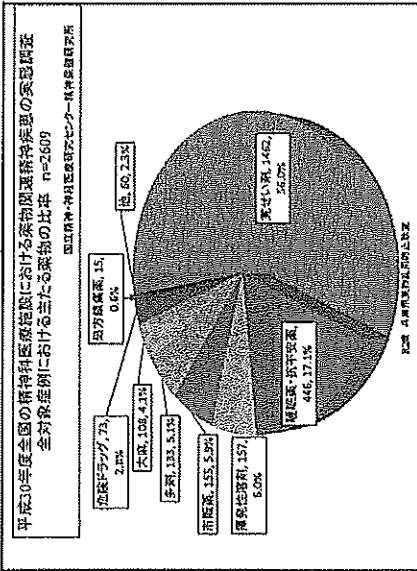
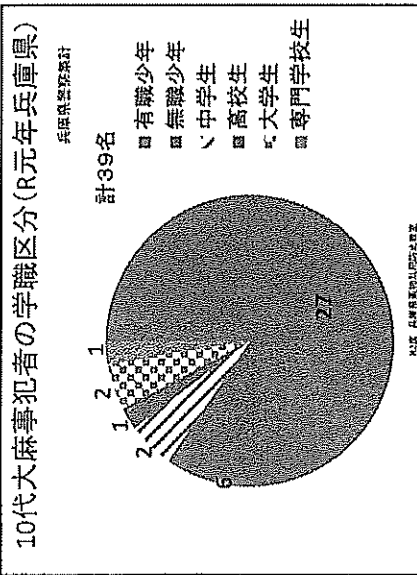
➡

引き続き警戒し、啓発活動が重要

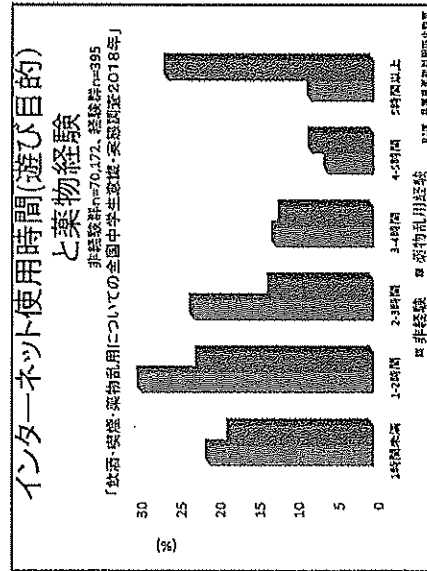
※注 兵庫県警が把握している数







- 薬物依存になりやすい特性
(座談録也、文科省DVD)
- ① 自分に自信が持てない
 - ② 人を信じられない
 - ③ 本音を言えない
 - ④ 見捨てられるのが怖い
 - ⑤ 孤独で寂しい
 - ⑥ 自分を大切にできない
- 出典: 兵庫県警察統計部作成



小児期の逆境体験は、薬物使用と関連する

⇒ 以下の逆境体験項目が多いほど
薬物使用リスクも増加する。
特に5歳以上あると14歳までに
違法薬物を使用するリスクは
0個の子と比べて9倍に跳ね上がる。
(Dube et al., Pediatrics, 2003)

小児期虐待(心理的・身体的・性的)
小児期養育放棄(心理的・物理的)
家族機能不全(親の物質乱用・親の精神障害・
両親間の暴力や顕著な不仲・親の逮捕服役)

出典: 兵庫県警察統計部作成

薬物(危険)に対する抵抗感の薄さは、
孤立と無力感のサイン

「どうせ周囲が助けてくれないなら、
薬物に助けてもらったって
いいじゃん・・・」

※注 大麻乱用者に対する調査

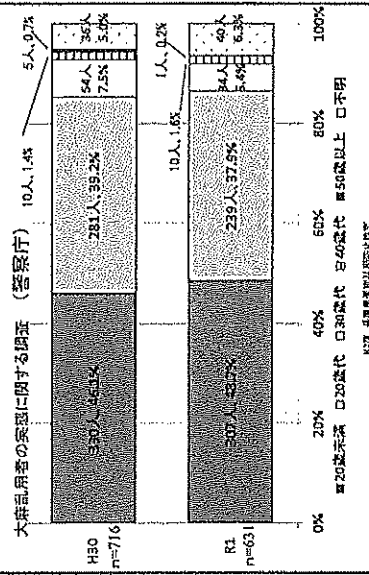
大麻乱用者の実態に関する調査結果

【調査内容等】

- 調査者: 警察庁
- 調査対象: 令和元年10月11日から同年11月30日までの間に大麻取締法で検挙された者のうち、違反態様が単純所持のもの631人分
- 比較対象: 平成30年10月11日から同年11月30日までの間に同様の調査(716人分)

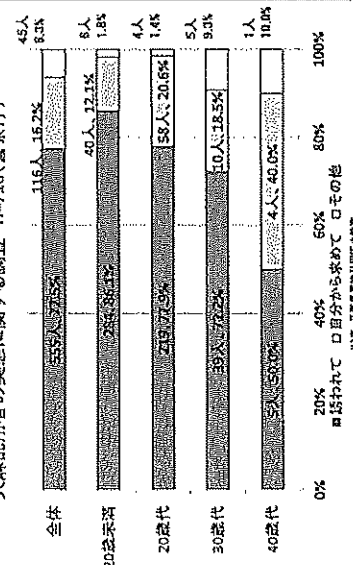
※注 大麻乱用者に対する調査

大麻初回使用年齢層構成比【H30とR1の比較】



大麻を初めて使用した経緯【H30】

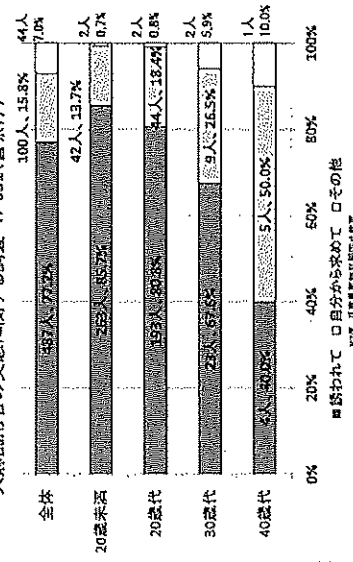
大麻乱用者の実態に関する調査 n=716(警察庁)



※注 大麻乱用者に対する調査

大麻を初めて使用した経緯【R1】

大麻乱用者の実態に関する調査 n=631(警察庁)



※注 大麻乱用者に対する調査

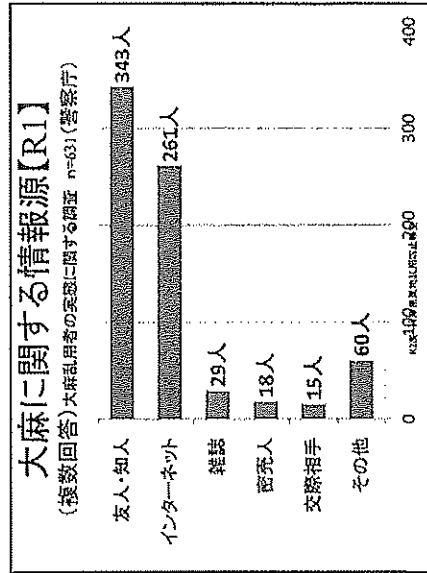
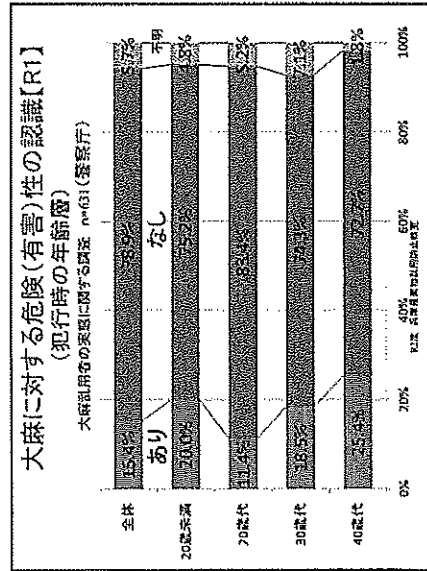
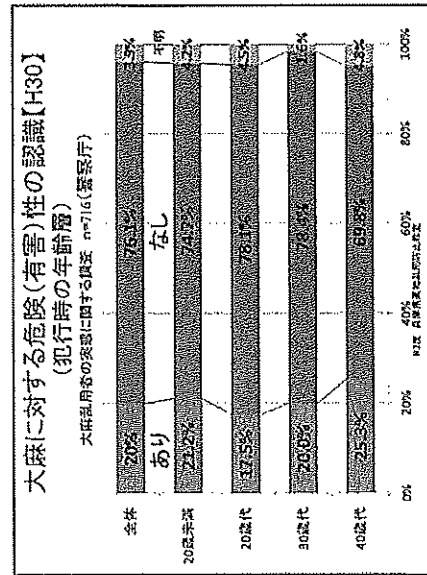
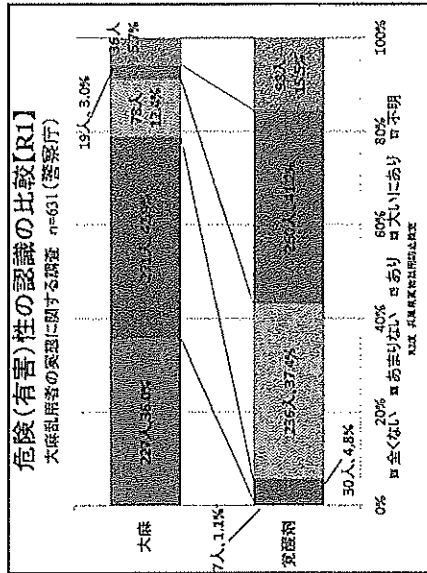
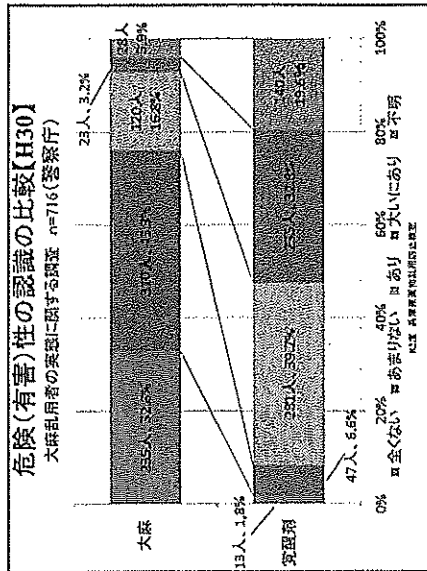
大麻を初めて使用した経緯【H30】

(初回使用年齢層別・複数回答)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	全体
好奇心・興味本位	55.7%	50.0%	57.8%	21.4%	58.8%
その他の雰囲気	20.8%	16.6%	13.3%	7.1%	20.0%
クラブ・音楽イベント等の高揚感	6.4%	9.1%	4.4%	14.3%	5.2%
パーティー感覚	5.0%	4.1%	2.2%	0.0%	1.9%
ストレス発散・現実逃避	2.3%	7.5%	8.9%	35.7%	5.9%
多幸感・陶酔効果を求めて	7.9%	9.5%	8.9%	14.3%	5.5%
その他	2.1%	9.6	4.4%	7.1%	2.8%

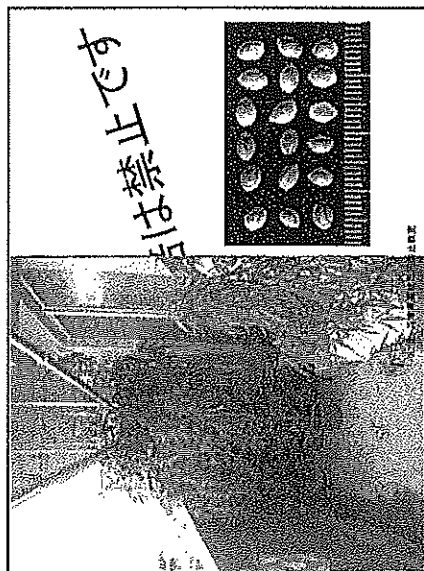
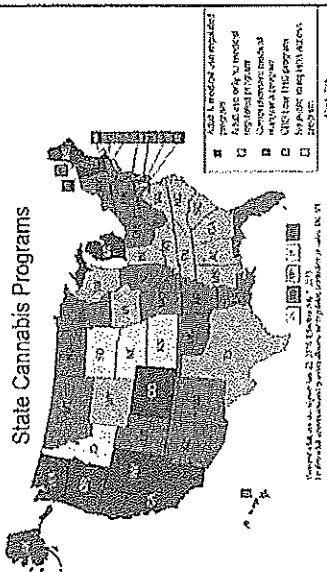
※注 大麻乱用者に対する調査

大麻を初めて使用した経緯【R1】 (初回使用年齢層別・複数回答)					
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	全体
好奇心・興味本位	64.0%	54.3%	57.8%	21.4%	58.8%
その他の誘惑	21.3%	19.5%	13.3%	7.1%	20.0%
クラブ・音楽イベント等の派手さ	4.4%	6.0%	4.4%	14.3%	5.2%
パーティー感覚	1.1%	2.6%	2.2%	0.0%	1.8%
ストレス解消・現実逃避	2.6%	3.1%	8.9%	35.7%	5.9%
多幸感・陶酔効果を求めて	3.7%	7.0%	8.9%	14.3%	5.5%
その他	2.9%	2.6%	4.4%	7.1%	2.8%



大麻規制米国各州の状況 連邦法では違法

<http://www.ncsl.org/research/health/state-medical-marijuana-laws.aspx>

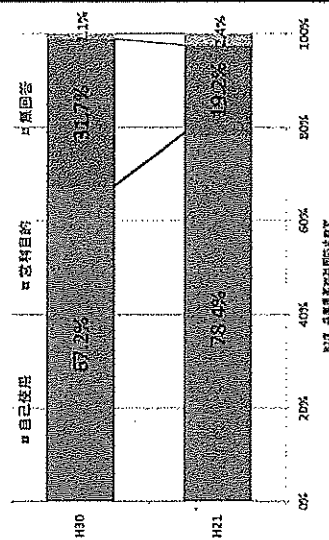


禁止は禁止です



大麻栽培の目的 H21とH30の比較

大麻栽培者の実態調査(警察庁: H21年1～6月対象159人及びH30年1～10月対象176人)



IV 国及び県の薬物乱用防止対策

第五次薬物乱用防止五か年戦略 (平成30年8月薬物乱用対策推進会議:厚生労働省)

目的: 政府一丸となった総合的な対策を講ずることにより、薬物乱用の根絶を図る

目標1: 青少年(※)を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止

(※)青少年とは、乳幼児期から青年期(おおむね18歳から30歳まで)までの者をいう。

目標2: 薬物乱用者に対する治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止

目標3: 薬物密売組織の壊滅……

目標4: 水際対策の徹底による……

目標5: 国際社会の一員としての国際連携・協力……

目標1 青少年(※)を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止

(1) 学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実

(2) 有職・無職少年に対する啓発の推進

(3) 家庭・地域での薬物根絶意識の醸成と未然防止のための取組強化

(4) 海外渡航者に対する広報・啓発活動の推進

(5) 広報・啓発の強化

(6) 広報・啓発活動による効果検証の推進化



目標2 薬物乱用者に対する治療と効果的
社会復帰支援による再乱用防止

- (1) 薬物依存症者等への医療提供体制の強化
- (2) 刑事司法関係機関等における社会復帰に
繋げる指導・支援の推進
- (3) 地域社会における本人・家族等への支援体
制の充実
- (4) 薬物依存症に関する正しい理解の促進
- (5) 薬物乱用の実態や再乱用防止に向けた効
果的なプログラムに関する研究の推進

※12 兵庫県警察本部防犯課



学習指導要領(関係部分抜粋)

小学校学習指導要領〔第5学年及び第6学年〕保健
(3)エ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を
損なう原因となること。

中学校学習指導要領〔保健分野〕

- (4)ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様
々な影響を与え、健康を損なう原因となること。
また、これらの行為には、個人の心理状態や人
間関係、社会環境が影響することから、それぞ
れの要因に適切に対処する必要があること。

※13 文部科学省学習指導要領

兵庫県薬物乱用防止対策実施方針

- ① 青少年薬物乱用防止対策の強化
青少年へ薬物乱用の危険性 及び
薬物を拒絶する規範意識を向上させる
各地区薬物乱用防止指導員協議会を
設置し、地域レベルで薬物根絶意識の
醸成と未然防止対策の強化(普及啓発)
- ② 再乱用防止対策の強化
- ③ 取締の強化
- ④ 密輸対策の強化

※14 兵庫県警察本部防犯課

- 目標1 青少年、家庭及び地域社会に対する啓発強化と規範
意識向上による薬物乱用未然防止の推進
(1) 学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実強化
(薬物乱用防止教育の内容の充実強化)

児童生徒が、薬物乱用の危険性・有害性のみなら
ず、薬物乱用は、好奇心、校けやりな気持ち、過度の
ストレスなどの心理状態、断りにくい人間関係、宣伝・
広告や入手しやすいなどの社会環境などによって助
長されること、また、それらに適切に対処する必要が
あることを理解できるようにするため、指導方法の工
夫が行われるよう一層の周知を図る。(文部科学省)

薬物の危険性・有害性等に関する科学的な知見に
基づいた薬物乱用防止に関するパンフレットや教材
等を作成・配布する。(厚生労働省、警察庁、文部科
学省)

※15 兵庫県警察本部防犯課

- 目標1 青少年、家庭及び地域社会に対する啓発強化と規範
意識向上による薬物乱用未然防止の推進
(1) 学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実強化

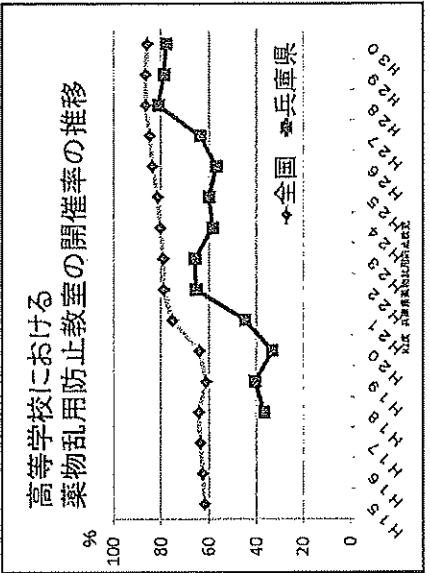
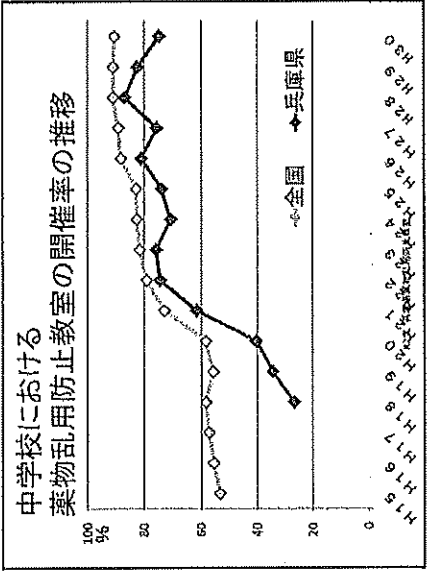
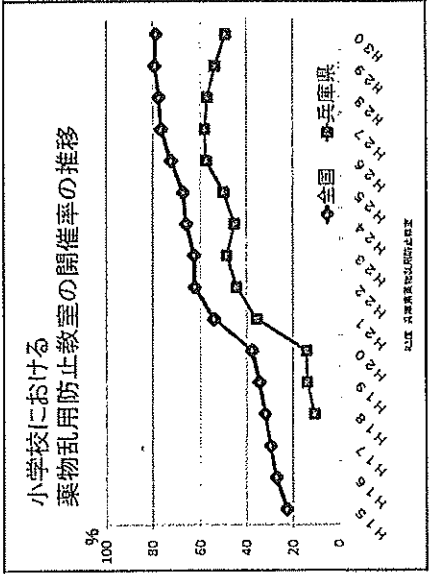
(薬物乱用防止教室の充実強化)

薬物乱用防止教室は、学校保健計
画において位置付け、すべての中学
校及び高等学校において年1回は開
催するとともに、地域の実情に応じて
小学校においても開催に努める。(警
察庁、文部科学省)

※16 兵庫県警察本部防犯課

V 薬物乱用防止教室の開催率

※17 兵庫県警察本部防犯課



平成30年度
薬物乱用防止教室の開催率(%)

区分	小学校	中学校	高等学校
全国	78.6	90.6	85.8
兵庫県	49.1	74.7	77.9

出典：兵庫県教育委員会調査(文科省調べ全体分)

県内公立校と私立校の教室開催率
(30年度)

区域	小学校	中学校	高等学校
公立	49.7%	81.3%	95.1%
私学	9.1%	13.5%	30.8%

出典：兵庫県教育委員会調査

公立校の地区別教室開催率
30年度 ただし()内は29年度

地区	小学校	中学校
神戸	36.0(40.2)%	69.0(81.6)%
阪神	49.1(59.5)%	74.4(89.7)%
播磨東	47.0(49.2)%	93.4(96.7)%
播磨西	61.0(61.3)%	89.7(89.7)%
但馬・丹波	65.7(78.2)%	91.4(91.5)%
淡路	39.0(33.3)%	75.0(100)%

出典：兵庫県教育委員会調査

教室を開催しなかった理由 (30年度)	
区 域	校 数
適当な講師がいらない	44
謝金等経費が確保できない	28
指導時間が確保できない	123
体育・保健体育で指導して必要なし	202
その他	28

※ 大阪府内公立校の集計

薬物乱用防止教室とは

学校において、薬物乱用の危険性を熟知している警察職員、麻薬取締官OB、学校医、学校薬剤師等の協力を得て、薬物に対する正しい知識や乱用の恐ろしさについて指導する教育活動。

【期待される効果】
 ビデオや副読本等の教材と専門家の経験を踏まえた講話等により児童生徒に薬物の危険性を強く印象づけること。
 誘われたら断る方法(術)を身に着ける。
 自尊心(セルフエスティーム)を培う。

※ 大阪府警察本部作成



薬物乱用防止教室の対象者は？

目の前の生徒・学生
 目の前の生徒・学生の保護者
 目の前の生徒・学生の友達

5年後 } に備えて 忘れないよう繰り返し
 10年後
 20年後

※ 大阪府警察本部作成

大阪府警4巡査を懲戒免職 「興味本位」で大麻吸引

2020/6/24 19:58 日本経済新聞

- 大阪府警堺署の巡査が大麻を所持したとして逮捕・起訴された事件を巡り、大阪府警は24日、巡査から大麻を譲り受けたなどとして、別の巡査3人を大麻取締法違反(譲り受けなど)の疑いで書類送検した。4人を同日付で懲戒免職処分とした。
- 懲戒免職となったのは堺署巡査(22)＝同罪で起訴＝と、いずれも西堺署の20歳と21歳の男性巡査2人、南堺の男性巡査(22)。
- 4人とも「興味本位で大麻を吸った。多くの人に迷惑をかけ申し訳ない」などと話しているという。

※ 大阪府警察本部作成

VI あなたは、断れますか？



丸山 九郎 東京大学経済学部教授

潜むワナ(魔の手) 密売人のビジネスモデル

新規ユーザー(潜在ユーザー)の開拓
→ 秘密性(売り手自身がばれない)
安全性(売り手にとって安全な相手か)
確実性(確実に手を染めるか)
の三要素をもって慎重に開拓することは、
密売人にとっての生命線

リピーターの確保
→ 売りつける相手が固定しビジネス
モデルが成立
(福岡県立大学経済学部教授 渡辺 孝 教授講演資料より)

ワナ(魔の手)はだれから

- ・密売人(見た目は普通)
 - ・携帯電話、インターネット
 - ・友だち
 - ・先ばい
 - ・恋人
- 簡単に
「NO」と
言えない人達
身近な人の誘いは断れない！
だから練習が大事！教育が大事！

丸山 九郎 東京大学経済学部教授

ねらわれやすい若者の特徴

- 1 不安定な家庭環境(居場所が無い)
- 2 弱和動機
「誰かとつながりたい」→ 不安から喫煙
- 3 同調圧力
→ 集団の空気をよく読み逆らえない
- 4 自尊心の外的所在型
→ 外の条件が自分を定義するんだとして自分の人生(生きること)にあきらめや、やるせない気持ち
(福岡県立大学経済学部教授 渡辺 孝 教授講演資料より)

薬物乱用の甘い誘い

薬物乱用の甘い誘い

- ・クスリでちやつと通そうよ
- ・面白いクスリがあるんだけど
- ・やせられるよ
- ・イライラがとれてすっきりするよ
- ・別がきれいになるよ
- ・眠気がとれて、勉強がでるよ
- ・とりあえず、預かってよ
- ・ちやつとだけ、ためておけ
- ・みんなやってるよ(やってないのはさみだけ)
- ・ただの栄養剤だよ
- ・最近の気分がかわるよ
- ・1回だけなら平気さ
- ・お金はこの次でいいよ



自分は「絶対しない」と言う気持ち
↑
自分を大切に思う心を培う
(自尊心; セルフエスティーム)

●誘われたら
「きっぱりと断る」

丸山 九郎 東京大学経済学部教授

